平成２７年度

創立３６年

安積三小　　学校だより
三しょうの丘　　No.7
（承認　賞賛　奨励）

平成２８年３月２２日
安積第三小学校

明日は君たちのもの

少年よ　小さくかたまるな
動きがとれなくなる
のびる手がある
動く足がある
使いたくなる
鋭い目がある
敏感な耳がある
ものを見極めたくなる
冒険がある
夢がある
願いをかなえたくなる
少年よ　その中に思いきり浸り
その日その日のくらしに
すばらしい弾みをつけろ・・・
サトウ　ハチロウより

「和顔愛語」という言葉があります。仏教の世界で言われる美しい言葉の一つです。有名な女優が「私の座右の銘は和顔愛語です」と話されていました。漢字から何となく意味は分かりますが、調べてみると「おだやかで温和な顔つきや言葉つき、振る舞い」だそうです。

全校集会で子ども達に「和顔愛語」の話をしました。話し終えた後、ある子に「人を温かい気持ちにする言葉は？」と聞くと、一番に「ありがとう」という答えが返ってきました。「ありがとう、あなたのおかげでとても助かったわ」「君のおかげですごくうれしかったよ」。こうした感謝の気持ちを伝えていくことが、子ども達の自立を促し、自尊感情を高めることに結びつくのではないかと思っています。

パナソニックの創業者である松下幸之助さんが生前に言った言葉です。「感謝の気持ちを忘れてはならない。感謝の心があってはじめて、物を大切にする気持ちも、人に対する謙虚さも、生きる喜びも生まれてくる」。

修了式を終えて

恥ずかしい話から始めます。２６年前、私は初めて小学１年生を担任しました。その日は、毎年行われている研究公開の日。初めての１年生で、しかも多くの教職員に参観されることもあって教材研究と資料の準備、発問、そして、予想される反応、板書計画などにかなり時間をかけたのでした。授業が始まって１５分。予め計画したように順調に展開していた授業が、次のステップに進もうとした時、「先生、つまんなぁい！」の大きな声。一瞬静まる教室、青ざめる私。そして、次々とつまらなそうな顔になる子ども達。その後の３０分。舞い上がったまま空中をさまよう無我の時間となりました。私は多くのことを学びました。採用以来、高学年を担任してきた私は、授業で一度も「つまらない！」と言われたことはありませんでした。というより子ども達は、教師の授業に、それも研究公開の授業などで「つまらない」など言うはずはないのです。しかし、１年生の子ども達は、正直に、素直にそれを私に伝えてくれたのです。

それ以来、心の中で「つまらない！」と思っていてもそれを言えずにいる子どもがいる、これが授業を計画し実施していく時の私の重要な視点になりました。あの子は、この子はどのように学んでいるのか、自然に一人一人の子どもの学びの姿に目配り、心配りができるようになったと思うのです。その意味で「つまんなぁい！」の叫びは私をかえた一言でした。

できる子は、日常的に効力感を持つことができます。しかし、なかなか理解が遅い子は、教師が意図的に励ましてやらなければなりません。子どもの数が多くてなかなか直接的にかかわれない場合には、子ども自身が自分なりの成果を確認できる場をつくってやらなくてはならないでしょう。効力感を持てないままではがんばれないわけですし、やる気がだんだんそがれていくわけです。目の前には、学習に遅れがちな子どもがいます。その子ども達も同じ教室で、教師の教えを受けようとしています。どの子にもそこで学んでいることを実感し、どの子にも達成感や充実感、自己存在感を味わえるようにすることは、最大の使命だと考えます。まだまだの自分を自覚し、今後も子ども達の成長を願って子ども達にかかわっていきたいと思います。

最後になりましたが、本校教育活動に対する日頃からの深いご理解とご協力に心から感謝申し上げます。今後も本校教育活動推進のため、折にふれご支援ご援助くださいますようお願いいたします。